

学校だより

翔 空

No. 43 平成24年 3月 9日 (金)
郡山市立喜久田中学校長 大堀 昌弘

「翔空」の由来 〈校舎のシンボル〉

壁画「空へ」を受け、ふう風こう光明めい媚びなこのまなびや学舎から、希望に燃え限りない空へ、力強く翔んでほしいという願いを込めて、翔空の碑ができた。

[入試問題を見て思う]

昨日、本校からはちょうど50名の生徒が県立Ⅱ期入試に挑戦しました。今朝の新聞を眺めて、5教科の問題がどのように評されているか掲載します。(3月9日付福島民友等を参照)

○国語：基本的な内容が多く問われた。問題量・難易度・出題形式等例年通り。

○社会：地歴公民ともにバランスよく出題。「事象の意味理解」が試された。

○数学：移行措置の内容も含め、思考力・表現力を問う問題が出題された。「速い計算力」も必要である。

○理科：各分野から、移行措置内容も含めバランスよく出題。「読み取る力」が要求される。

○英語：例年通り。バランスよく出題された。

毎年話題となる出題傾向と、今年のは、昨年度と比べて、英語が変りやすいです。は、私が出題する問題の難易度は、昨年と比べて、少し高めに設定されています。真剣な英語力を試す作文問題も出題されました。また、英語力アップのため、卒業式までに、卒業証書



放射能と共に生きる

～もうすぐ震災から1年が経ちます～

今日は3月9日。あの震災後の1ヶ月間の出来事が走馬燈のように思い起こされます。時の流れは早いもので、あの恐ろしい震災が起きてもう1年が過ぎました。しかし、郡山に住む私たちは、いまだ放射線被害の真っ只中にあると言っても過言ではありません。

手元に昨年4月初旬の新聞記事等があります。いくつか記事を拾い紹介しましょう。

3月11日午後2時46分に起きた大地震。マグニチュード9.0、震度7強とされ、スマトラ沖の大地震(マグニチュード9.1)に次ぐものと言われています。[1900年以降の地震では4番目]いわゆる「激甚災害」に指定され、「国際的災害支援」(民・官両方に対して130近くの数国及び地域から)を受けながら復興を目指しています。地震からほぼ1ヶ月が経ち、津波、余震、原発事故等の影響もあり、特に福島県は三重の被害を受け、未だ行方不明者の安否を確認することさえできない地域もあります。

今回、テレビ・新聞等のさまざまな報道によると、(※4月7日時点)

- ・原発事故は、チェルノブイリ事故ほどではないが、スリーマイルでの事故より数段重い。
- ・(推定)死亡・行方不明者をあわせると2万7千人を超えるであろう。
- ・全国各地から多くの善意の義援金が寄せられている。
- ・被災者において、「仕事がない」「内定を取り消された」などの悲嘆の声が多く聞かれる。
- ・「地域の復興に燃える新入役場職員」(岩手県)
- ・「見知らぬ土地への転校を余儀なくされた子どもたち」(福島県)
- ・ガソリン不足で一時159円(レギュラー)の最高値を出す。
- ・被災地の松島マリニピアでペンギンの赤ちゃん誕生。4月20日には、水族館を再開するとの嬉しいニュース。

今思い起こすと、身震いするほどの悲惨な状況の中にも嬉しいニュースもありました。いまだに自らの故郷に帰れない多くの被災者が存在して、昨日(3月8日)高校入試を受験した避難中分です。昨日(3月8日)高校入試を受験した避難中の3年生の切ない思いを考えると涙がでる中分です。私たちが郡山市は、全国に先駆けて「学校庭の表土除去」を行い、各校にも夏以降(表土除去以降)、多少なりとも生徒の元気な声が聞こえるようになりました。しかし、各地区ごとの放射線量の高い地区が残っています。本校も、庭の線量が高いため、今後、市の除染計画に従い、芝生や低木の除去作業を行う予定です。生徒には、外から帰ったらうがい・手洗いの励行、そして長時間外での活動(特にほこりっぽい場所での活動)においては、マスクの着用など、自己管理の徹底を図りたいと考えています。

卒業式までわずか3日となりました。13日(火)には感動の卒業式を迎えるべく最終準備段階に入りました。79名の卒業生を心から送り出したいと思っております。